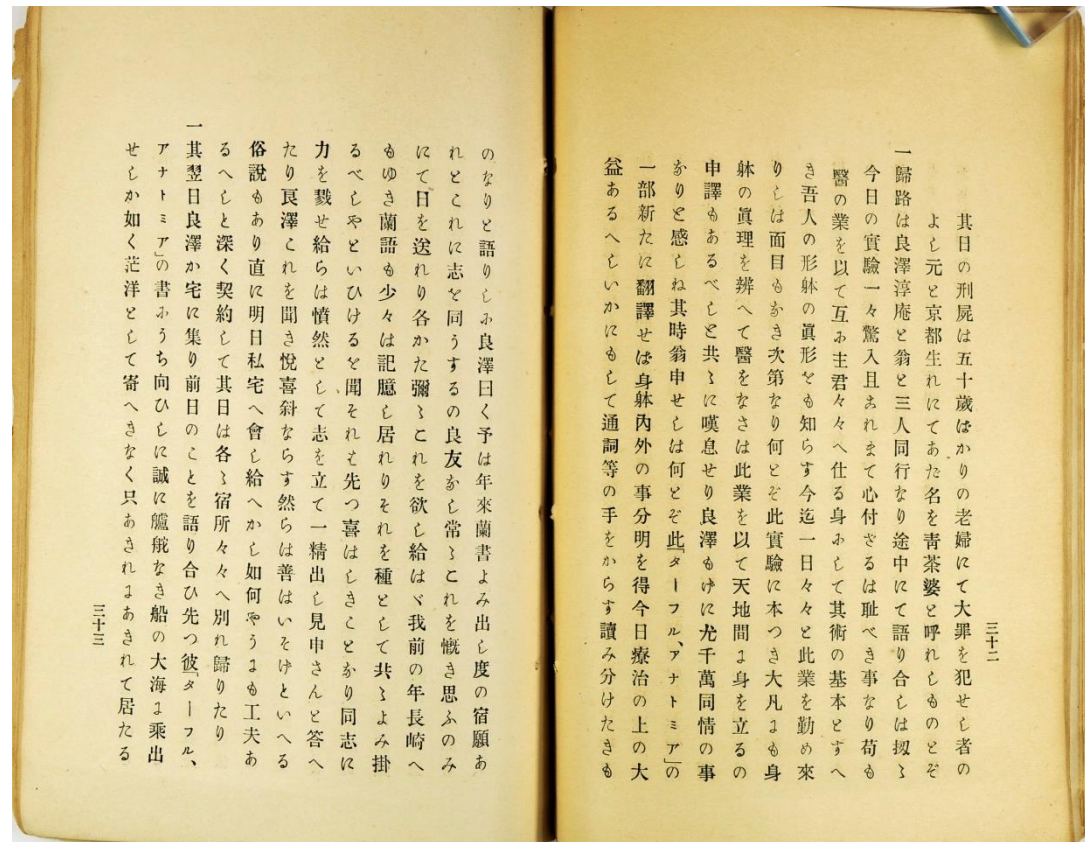
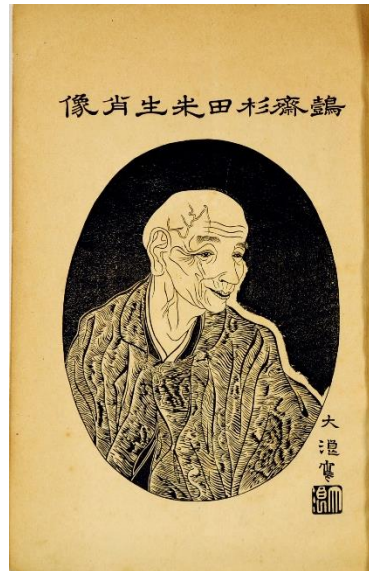
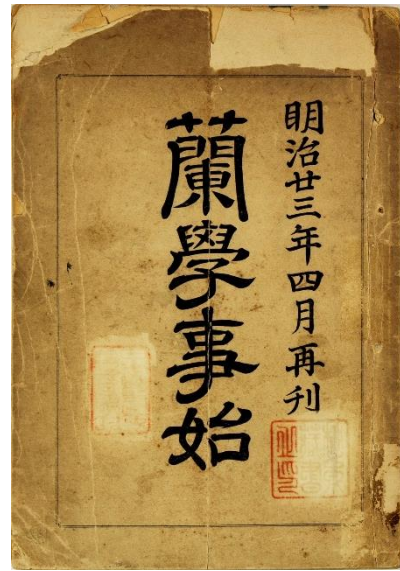


# 蘭学事始



「蘭学事始」 福井県立図書館貴重資料 [デジタルアーカイブへ](#)

## 解説

小浜藩医である杉田玄白は、自身の死後に蘭学草創期の史実が後世に誤って伝わることを懸念し、晩年に自らの記憶する当時のことを書き残そうと決意しました。弟子の大槻玄沢おおつきげんたくに校訂させ、1815年（文化12）に『蘭東事始』らんとうことはじめとして完成しましたが、江戸時代に出版されることはありませんでした。

その後、原稿も大槻家に贈られた写本も失われてしまいましたが、幕末に蘭学研究者の神田孝平こうへいが湯島の露店で偶然に写本を見つけたのです。そして1869年（明治2年）、玄白の曾孫の杉田廉卿れんきょうによる校正を経て、福沢諭吉をはじめとする有志一同が『蘭学事始』（上下2巻）の題名で刊行しました。その後再版を重ね、日本における西洋医学導入期の当事者による貴重な回想録としてひろく一般に読まれるようになります。

本資料は1890年4月2日に再版されたものです。福沢諭吉は序文で「我々は之を読む毎に、先人の苦心を察し、其剛勇に驚き、其誠意誠心に感じ、感極きわまりて泣かざるはなし」と感嘆の想いを述べています。

## 資料の注目ポイント

資料の掲載部分は1771年（明和8）3月4日、前野良沢、杉田玄白、中川淳庵じゅんあんが小塚原の刑場で刑死者の腑分け（遺体解剖）を見学した後の帰り道の場面です。『ターヘル・アナトミア』に描かれた解剖図の正確さに感銘を受け、興奮冷めやらぬまま連れ立って語る3人の様子が実に生き生きと描かれています。それまで身体の内部を知らなかった自らの無知を恥じ、「ターヘル・アナトミアの一部、新たに翻訳せば、身体内外の事分明を得、今日治療の上の大益あるべし。」と翻訳を決意します。このとき良沢は49歳、玄白は39歳、淳庵は33歳でした。

翻訳はさっそく翌日から良沢の家で始まったのですが、そのときの状況を玄白は「艤ろ舵かじなき船の大海に乗出せしが如く、茫洋ぼうようとして寄べきかたなく、只あきれにあきれて居たるまでなり。」と述べています。ちなみに玄白はこのときアルファベットを読むことさえできず、良沢に助けられながら少しずつオランダ語を習得していきました。

少し先の箇所ですが、次のような有名なエピソードがあります。鼻の部分ばなを翻訳するのに、「フルヘッヘンド」の意味が理解できず、行き詰まってしまいました。やがて良沢が持っていた簡単な辞書に書かれていた「庭を掃除すれば、其の塵土じんど集まりフルヘッヘンドす」という部分を手がかりに、ついに「うずたかい（盛り上がっていること）」という意味だと気がついた、という苦労話です。原作『ターヘル・アナトミア』の鼻の箇所にはフルヘッヘンドの記載がないので、この話は玄白の記憶違いかといわれていますが、わからないことが「わかった」ときの感動は、今も昔もそう変わらないものだと我々に教えてくれるエピソードとなっています。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「蘭学事始」	福井県立図書館貴重資料 資料番号 T0001-00126	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-2005672-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-2005672-1-p1</a>
「解体新書 序図」 「解体新書 卷之一」 ～ 「解体新書 卷之四」	福井県立図書館貴重資料 資料番号 T0001-00001	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 「序図」(序文、解剖図) <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1002501-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1002501-1-p1</a> 「卷之一」(解剖学総論、体の形体、名称、要素、骨格、関節) <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033144-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033144-1-p1</a> 「卷之二」(頭、口、脳・神経、眼、耳、鼻、舌) <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033145-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033145-1-p1</a> 「卷之三」(胸、腹、肺、心臓、胃、腸、動静脈など) <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033146-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033146-1-p1</a> 「卷之四」(肝臓、腎臓、生殖器、妊娠、筋肉など) <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033147-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=012-1033147-1-p1</a>

参考文献

- ・『新釈「蘭学事始」』(長尾剛 PHP 研究所 2004年)
- ・『すらすら読める蘭学事始』(酒井シヅ 講談社 2004年)
- ・『ふるさと福井の先人100人』(福井県教育委員会 2016年)